質疑・答弁から

組合員さん４名が発言

提案説明のあとに行われた質疑・答弁では、出席者４名が発言。理事会から答弁が行われました。要旨を抜粋してご紹介します。

畠山維子さん（青森地域総代）

◆黒石店の閉店に伴って、何名の組合員が脱退し、どのくらい出資金が減ったのかをお聞きしたいです。→①

◆キャッシュレス決済について、和徳店でクレジットカードしか使えませんでした。新型コロナウイルスの流行以降、電子マネーの方がレジの担当者との接触回数が少なくて済むので、積極的に導入してほしいです。また、プリペイドカードを導入するとのことですが、できるだけ急いで導入してほしいです。→②

◆閉店を控えた黒石店の品揃えについてです。新型コロナウイルス流行の影響もあったと思いますが、４月の初めころから、賞味期限の長い商品まで品切れが多く困りました。ここまで商品がないと「コープあおもりは大丈夫か」と思われるのではないでしょうか。→③

青山　薫さん（弘前地域総代）

◆各地域で行われている組合員活動が方針に沿った活動なのか、その見極めと、活動にあたって方針を具体化するための援助等は、どこで論議されていますか。また、地域主導とは言え、活動に対しての方向性の提示や情報提供などは、理事会の仕事になるのではないでしょうか。かつて理事会で運営していたテーマ別活動チームがないことの弊害が非常に大きいと考えることから、テーマ別活動チームの復活を望みます。→④

◆２０１９年６月より組合員理事の役割が見直されました。見直しする際には、内容を総代会前に各地域の組合員集会で説明・提案がされ、総代会で承認されてから実施されるべきだったのではないでしょうか。→⑤

◆今年は、新型コロナウイルスの影響で店舗経営は厳しい状況下にあると思われます。このような状況になった際などを踏まえて、閉店基準の見直しがあってもいいのではないでしょうか。→⑥

佐藤眞砂子さん（弘前地域総代）

◆黒石店の閉店について、事前に役員説明・理事が説明責任を果たし、一般組合員の意見を反映した経営努力をするべきだったと思います。閉店により、組合員・利用者はもちろん、関係者や労働者・地域に与える不利益は大きく、地域に貢献する生協の役割を放棄したものと考えます。数字や売り上げなどの成果のみで判断する評価方法を今後も続けるのであれば、さらに信頼を失っていくと思います。課題は、一般組合員を大切にし、生協の原点に立ち、定款第１条の実践、民主的な運営・組織作りだと思います。閉店の翌日から困る人がたくさんでます。共同購入だけでは、解決できません。困る人が出ないように、具体策を示してください。→⑦

佐々木礼子さん（弘前地域総代）

◆組合員理事は、組合員活動に参加せずに、どこで組合員の声を聞くのですか。２０１９年６月に組合員理事の活動内容が変わった際に、その経緯を後から説明してもらいましたが、よくわからない内容でした。また、テーマ別活動チームについて、地域を育てる意味でも、理事でなくても、参加できる人が本部に集まり、それぞれの地域のことを発表しあうなどの場を作ることで、次代の組合員理事育成に繋がっていくのではないでしょうか。→⑧

理事会から

①　黒石店閉店に伴う脱退は、６月15日時点で１，５１２名です。お返しする出資金の総額は、出資金１万円以上の方には口座振り込みでお返ししており、６月20日に会計を閉めないと金額が確定しませんが現時点では、最低でも約７２９万円以上となっています。

②　和徳店でのお買い物ではご迷惑をおかけしました。当時、電子マネー決済関係の機材が逼迫して、和徳店はオープンに間にあいませんでした。今はコープあおもりの他の店舗と同様の対応となっています。プリペイドカードについては、コープあおもりの店舗のみで利用できるカードで、21年度の早い段階に導入できるよう準備を進めています。

③　確かに新型コロナウイルスの影響もありましたが、発注量が少なかったことがあり、その後はしっかり棚を埋める数量を発注するよう確認しました。ただ、現在は、閉店が迫っていますので、発注を控えさせていただいています。

④　地域活動の支援にあたって、かつての組合員理事で構成する部会やチームを復活させて欲しいとのご意見ですが、現時点では、復活は考えておりません。現在は、組合員理事全員で構成する組合員理事協議会で、必要に応じて話しあっており、話しあった方針や情報を組合員活動部が整理して、地域リーダー会や委員会へ発信しています。支援ということでは、活動をより良いものにしていくための話しあいや知恵出し、情報提供は、地域活動担当職員が参加する地域リーダー会や地域会議、地域活動協議会の場が中心となります。組合員の活動を側面から支援していくために、組合員活動部があります。組合員の期待に応えられるように、参加しやすい活動の進め方の提案や活動に役立つ情報の提供など、組合員活動部が行う支援のレベルアップに努めます。

⑤　２０１９年６月に行った組合員理事の役割の見直しは、組合員理事の活動を、より定款と理事会規則の趣旨に沿ったものとするために実施したもので、組合員集会や総代会の承認を経なければならない変更ではありませんでした。

ただし、ご意見をいただいたとおり、組合員理事と組合員活動にかかわる組合員とは、相互理解に基づいてそれぞれ固有の役割を果たし、活動の喜びを手にする存在でなければならないと考えます。したがって、組合員理事と組合員との相互理解が維持され、育まれるように、大切な情報の交流が円滑に行われるよう努めていきます。

⑥　現在の「コープあおもりの閉店基準」は、２０１７年３月９日の理事会で決定した基準です。それ以前は、弘南生協と合併した際の閉店基準がありましたが、新店舗に対応した基準ではありませんでした。変更する際に、特別対策店舗の対策期間を１年延長しており、今、この基準を見直すことは考えておりません。この基準に沿ってしっかり店舗の損益改善を果たして、存続・発展のために努力していきます。

⑦　黒石店の対策は様々してきましたが、もっと利用者一人ひとりの声を聴いて、事業に活かすことが必要だったと反省しています。ただ、一方的に理事会だけで決めたわけではなく、総代会の議案にして、総代会でも確認いただいています。また、数値だけで閉店の判断をしているわけではなく、閉店基準に当てはめれば、18年度で閉店することになりますが、この間の意見等をふまえ、もう１年チャレンジさせていただきました。買い物に困る方への具体策としては現在、共同購入の無料個配やコープハウスのご案内をさせていただいております。共同購入を命綱に生活している方もおり、共同購入をお役立ていただきたいと考えています。

⑧　組合員理事の皆さんには地域の取り組みには積極的に参加してくださいとお話しています。２０１９年６月の変更では、組織運営を透明性のあるものにするため、生協の経営全般に目配りする組合員理事と、地域の活動を支える地域リーダー会に分けました。また、組合員の活動に役立つ情報や学習活動などの役割は、組合員活動部が担うものと考えています。新しい形のテーマ別活動チームを作れば良いのではないかというご意見を頂きましたので、一つのアイデアとして頂戴いたします。

2019年度の経営状況

◆19年度のコープあおもりの事業経営は、組合員・出資金・供給高ともに18年度より増加し、組合員15.5万人、出資金35億円、供給高 152.2 億円と過去最高となりました。しかし、経常剰余金が4,069万円の赤字となり、大変厳しい経営結果となりました。当期未処分剰余金が赤字となったため出資配当が実施できませんでした。

◆店舗事業では供給高予算比93.7%と予算に届きませんでした。特に移転新築オープンした和徳店は予算比 74.1%と厳しい結果となりました。黒石店は現金収支（減価償却費を除く直接剰余金）が４年連続赤字となり20年６月閉店を決定しました。

◆共同購入事業では、利用人数、一人当たりの利用高、供給高のいずれも予算に達しませんでしたが、一人当たりの利用高が 18 年度より増加したことから、供給高は 18 年度より増加（前年比100.6%）しました。

◆事業開始６年目となる配食事業は、利用者・食数が増え、直接剰余金が黒字まであとわずかとなりました。「やわらか食（介護食）」を開発し、お届けを開始しました。「あおもりコープフーズ」は給食事業の新たな利用先が増え、事業高が 18 年度より増加しました。これにより、損益が改善し、経常利益は黒字となりました。

2020年　第28回通常総代会　採決結果

議　　案		賛成	反対	保留
第１号議案	２０１９年度活動報告・事業報告承認の件	483	4	12
第２号議案	２０１９年度決算関係書類等承認の件	485	2	12
第３号議案	２０２０年度活動方針・事業計画及び予算決定の件	476	3	19
第４号議案	定款の一部変更の件	485	4	10
第５号議案	総代選挙規約一部変更の件	489	0	10
第６号議案	役員選任規約一部変更の件	483	3	13
第７号議案	役員報酬決定の件	450	26	23

※議長は議決に加わる権利を有しません。第３号議案の採決結果は、棄権した総代がおり、出席者数と一致していません